

平成31(2019)年度 江戸川区立下鎌田東小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって学ぶ意欲をもち、生きる力の基となる考える力の育成 ・自分も相手も大切にし、豊かでしなやかな心の育成 ・健康な体をつくり、粘り強くやり抜く力の育成 	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	笑顔と活力にあふれ、児童一人一人が自分のよさを発揮できる学校 考える子 思いやりのある子 たくましい子 協働し、質の高い教育活動の実現を目指す教師
--------	--	----------------------------	---

前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 家庭、地域との連携を深めた教育活動を展開することができた。 <課題> 組織的な教育力や対応力をさらに向上させ、児童の学びを支えること。
-------------------	---

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	連携プログラムの徹底した実施 近隣中学校と連携した活動	中学進学時の不安解消	A	A	○小中相互の授業参観を年2回実施。6年生による部活体験や中学生による小学校職場体験、中学教員による体育授業を実施。	A	小中のいろいろな連携ができていて、中学生による職場体験は、小学生、中学生双方にとってもよい取組だと思う。	小中連携を強化できる取組をさらに検討し、実施していく。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	ICT校内研修を年3回実施	週1回以上デジタル教科書、カメラ等活用授業実施率80%	A	B	○ICT校内研修を年3回実施。 ●ICT活用授業実施率70%程度	B	学校公開ではICTを使った授業がよくみられた。日常的に活用してほしい。	デジタル教科書操作を含め、ICTリテラシー向上の研修を増やす
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	特別支援教育研修年3回実施 校内委員会の内容を毎回報告	要支援児童の全校体制での支援・見守り	A	A	○特別支援教育研修を年3回実施。全教員が児童理解を深め、全校体制で支援を行った。	A	要支援児童の対応については教職員間の共通理解ができていていると思う。	校内委員会の充実と的確な情報共有に、より一層努める。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	補習教室を年35回以上実施 東京ベーシック・ドリル、オリ・パラ算数ドリルの実施	全国・都学力調査で正答率を国・都の平均に近付ける	A	A	○全国調査結果は平均と同等、都調査は平均と±4%の差。次年度に向けて復習に取り組んでいる。	A	取組の成果が上がっている。継続した取組を望む。	算数で個々の学習カルテを作成し、個に応じた指導の充実を図る。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実	読書科ノートを活用した授業調べ学習での積極的活用	全学級、週1回以上図書館を利用する	B	B	○読書で得た情報を整理・分析し、問題を解決する学習によく取り組み、図書を活用した調べ学習に慣れてきた。 ●学年によって、読書科ノートの活用の頻度に差が出た。	B	全学年による読書科ノートの活用を望む。	読書科ノートを調べ学習等で積極的に活用できるように研修の機会を増やす
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	運動遊びを年35回以上実施 体育の授業の充実	体力合計点を都平均に近付ける	A	B	○学年ごとの運動遊びや全校運動週間を年間を通して実施した。 ●半数以上の学年で、体力合計点が平均を下回った。	A	児童の生活スタイルの変化も影響していると考えられるが、外遊び奨励の取組の継続を望む。	新しい遊具の紹介等を通して、外遊びの工夫を働きかけていく。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	ゲストティーチャー等による授業の推進 1回のオリパラコーナーの更新 オリパラ算数ドリルの実施(6年)	オリンピック・パラリンピックレガシー創造プランの確実な実施	A	A	○ゲストティーチャーによる体験学習を5回、全学年で実施。オリパラ競技の理解を深めた。オリパラドリルには6年生が取り組んだ。	A	ゲストティーチャーによる体験学習は、本物に触れる貴重な機会だと思う。	ゲストティーチャーによる授業に関連させるなどして、オリパラコーナーの充実を図る。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	外国語活動校内研究授業を年4回、事前授業を年4回実施	授業観察で各学級1回以上外国語活動の授業を実施	A	A	○授業観察は、3年生以上の全学級が外国語活動を実施。1年間の校内研究を通してALTの効果的活用について理解を深めた。	A	楽しみながら学んでいるような活動の継続を望む。	外国語、外国語活動推進校の取組を取り入れるなどして、授業の充実を図る。
健全育成の充実	健全育成の充実	いじめ・不登校の未然防止と早期発見に関する対応の充実	年間1回以上授業観察で道徳を実施 いじめ・不登校対策委員会の開催	いじめ問題解消率100%	A	A	○いじめ対策委員会等で、組織的に解決にあたることで、いじめ問題は解消に向かっている。	A	いじめ・不登校解消の取組の継続を望む。	定期的な情報の共有を行い、早期に組織的な対応を行っている。
特別支援教育の推進	インクルーシブ教育の推進	インクルーシブ教育の正しい理解の促進	ユニバーサルデザインの授業の提案・周知	全学級によるユニバーサルデザインの授業の実施	A	B	○ユニバーサルデザインに関する資料を配布するなどして、提案・周知に努めた。 ●学級により取組に差が出た	A	どの教室も、黒板がある前面には掲示物や不要なものがなく、全校でユニバーサルデザインに取り組んでいることが分かる。	
校務改善に向けた取組の推進	校務改善の推進 ライフ・ワーク・バランスの推進	学校運営システムの改善・充実 効率的・効果的な職務遂行の推進	校務分掌の改善 会議等の精選 一斉定時退勤日を月2回設定 完全退勤時刻を20時に設定	各学期ごとに校務分掌の見直しを実施 時間外在校時間の平均を1年間で10%削減	A	B	○校務分掌の見直し等、校務改善に努めた。 ●時間外在校時間の平均が減ったが10%減には及ばなかった。	B	時間外在校時間が減ってきていることは評価できる。取組の継続を望む。	時間外在校時間が45時間以上の教職員は個別に話をし、努力を促す。
		家庭・地域との連携の推進	学校評価を活用した改善システムの充実 積極的な情報発信	各学期ごとに学校評価を実施し、改善を図る	A	B	○学期ごとの学校評価を基に校務改善を図ってきた。 ●ホームページによる発信の頻度が時期によって偏った。	A	メールによる学校評価の方法は、保護者にとって簡単などで、回答率も上がっていると思う。	ホームページ担当者を中心に、定期的な情報発信に努める。